

科学保安講習会を開催

日本万引防止システム協会（JEAS・稲本義範会長）は11月15日、都内の会場とオンラインの併用で「第4回科学保安検定講習会」を開催した。

講習会はJEASカメラ画像安全利用推進委員会と保安警備業務を行う警備会社が企画し2020年にスタート。高性能化する監視カメラや顔認証システム、個人情報法令などに関する

知識と理解を深めることを目的に毎年行っている。

講習会のプロジェクターである日本保安・青柳秀夫社長が進行役を務めた。JSS・林俊一執行役員は顔認証システムを活用した保安業務について解説した。

顔認証システムを防犯目的で導入する企業に向けたJEASの自主認定制度「推奨顔認証システム検定」

の基準に合格した4企業（日本電気、グローリー、ジオビジョン、リアルネットワークス）の担当者は、自社のシステムや機器を説明した。最後にセフトHD・山根久和社長は講習会を振り返り総括した。

プライバシー侵害回避
オンラインで学ぶ

JEASは11月28日、「AIカメラ等のPIA（プライバシー影響評価）の推奨事例に学ぶ」と題したオンラインセミナーを行った。講師はリスク防止コンサル

ティングを行う東京海上デューアール（東京都千代田区、水野一幸社長）の青島健二・上級首席研修員が務めた。

PIAは個人情報に関わる業務を行う際にプライバシー侵害を回避する管理手法。監視カメラを使用するとき、管理者は個人情報などのように収集、使用、共有、保管されるか、事前に影響を評価する必要がある。

青島氏は兵庫県加古川市が小学校の通学路に見守りカメラを設置する際に取り組んだ事例を紹介した。